

2015年12月18日

尾張北部地域ごみ焼却処理広域化第1小ブロック会議
会長 江南市長 澤田 和延 様

日本共産党2市2町議員団

犬山市議員団 団長	岡 覚
江南市議員団 団長	東 義喜
扶桑町議員団 団長	小林 明
大口町議会議員	吉田 正

新ごみ処理施設江南候補地の断念を求める申し入れ書

日頃は、2市2町のごみ行政にご尽力いただき感謝申し上げます。

先日11月26日に開催された、新ごみ処理施設建設事業に関する意見交換会で、地元同意の取得は一層困難になっていることが明らかになりました。

第1小ブロック会議は、当初犬山市池野地区を新ごみ処理施設建設候補地としていました。しかし、前江南市長の言動によって地元との協議が困難に陥り、そのことによって2市2町の枠組みからの離脱を迫られた前江南市長は、2012年10月に突如江南市内での受け入れを表明。1年半で地元同意を得ると宣言をしました。そして、2012年12月に江南市中般若町北浦地区を候補地とすることを明らかにしました。この前江南市長の態度表明を受け、第1小ブロック会議は2013年2月に「江南市が責任を持って速やかに地元及び地権者の同意を得、地元同意が得られた時点で新ごみ処理施設の建設地とする」ことを決定しました。

しかし江南市は、約束期限の2014年9月末が過ぎ3年以上経過したにもかかわらず、未だに地元同意を得ることができていません。

地元同意が得られない理由は、前江南市長のスジの通らない強引な候補地押しつけと不公正な手法への不信にあることは明らかです。地元同意が得られる見込みがない以上、住民との約束を守り、中般若町北浦地区の候補地を断念するのが当然です。

ところが、第1ブロック会議の2市2町の首長が揃って、地元の代表と懇談し、地元の理解を得ようとしています。このことは、2013年2月の第1小ブロック会議の決定に反する、全く道理に合わないご都合主義の最たるものです。

澤田・江南市長は「23万人のかかわる問題、公共の利益を考え一日も早く、明確な方向性を示したい」「ブロック会議で相談する」などと述べ前に進む姿勢を示していますが、地元同意なしでの候補地押し付けは断じて許されません。

日本共産党2市2町議員団として、新ごみ処理施設候補地問題の一刻も早い正常化と民主的解決を求め、第1小ブロック会議に対し下記の申し入れを行うものです。



記

1. 江南市の責任で進めてきた新ごみ処理施設の江南候補地・中般若町北浦地区を白紙撤回すること。第 1 小ブロック会議の責任で進む正常な体制に戻し、凍結状態の正式な候補地・犬山市池野地区についても白紙に戻す結論を出すこと。
2. 地元地区住民の同意がない状態で中般若町北浦地区を建設地とするような、住民無視の決定は絶対に行わないこと。
3. 全住民が自らの課題として「ごみ」に向き合い、ごみ減量に取り組むことができるよう、2市2町の枠組みでの広域処理計画をやめ、「自分たちのごみは、自分たちの地域で責任を持つ」自区内処理への転換を検討すること。

以上

連絡先： 日本共産党江南市議員団
東 義喜（江南市役所内日本共産党議員団室）